令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県・大崎市】

学校名【大崎市立古川東中学校】

１　実践テーマ	㊀・Ⅱ・㊂・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）（Ⅰ・Ⅲに丸印）
２　実施対象者 （学 年 · 人 数）	大崎市立古川東中学校 （１）ボッチャ体験 福祉委員　２０名（１～３学年　各クラス１名） 生徒会役員６名 （２）講演会 第１学年　２３０名
３　展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（　　　　　　　） ②（丸印）行事名（　講演会「障がい者との共生社会」） ③（丸印）その他（　ボッチャ体験会　　　　　　　） （２）地域における活動 ①　イベント名（　　　　　　　） ②　その他　　（　　　　　　　）
４　目　標 （ねらい）	・障がい者への理解を深める。 ・共生社会を実現しようとする気持ちを育てる。 ・共生社会における行動について考える。 ・パラリンピックスポーツからスポーツの持つ可能性について考える。
５　取組内容	（１）７月１３日㈫～７月１６日㈮ 第１回アンケート（全校対象） （２）８月２４日㈫～８月２７日㈮ 第２回アンケート（全校対象） （３）１０月４日（月）　「ボッチャ競技体験」 宮城県障がい者スポーツ協会職員の方を講師に招き，ボッチャ競技体験を行った。今回は，新型コロナウイルス感染防止を考慮し，福祉委員会と生徒会執行部の計２６名の生徒が参加した。生徒は，話を聞く態度がよく，ボッチャ競技の体験にも一生懸命取り組んでいる様子が見られた。今回の体験学習では，ボッチャ競技の内容だけで

なく，障がい者との共生やパラリンピック選手の挑戦する気持ちの理解など，内容が多かったため時間が短かった。もう少し時間があれば十分な体験ができ，障害者に対する理解も深まったと思う。

（4）10月19日㈫～10月22日㈮
　第3回アンケート（全校対象）

（5）１１月２５日（木）　講話「障がい者との共生社会」

　宮城県障がい者スポーツ協会の方を講師に迎え「障がい者との共生社会」につい　ての講話を行った。障がいを持っている方の目線に立つことが大切だということ。また，共生のためには，社会や自分たちの意識の高まりが必要であることを理解できたと思う。生徒は，一生懸命に話を聞いたり，質問に対して積極的に挙手したりするなど充実した講演会となった。

6　主な成果

（1）アンケート（3回実施）
　アンケート実施時期を，東京オリンピック・パラリンピックの実施前，実施中，実施後に設定した。マークシートのためアンケート結果の変容を知ることはできなかったが，オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まったと考える。

（2）１０月４日（月）　ボッチャ体験学習
　障害の有無にかかわらず，スポーツを通して共に楽しんだり互いに尊重したりする意識の高まりが見られた。また，パラリンピックに対する興味・関心が高まっただけでなく，実際に触れて体験したことで，障害を持つ選手の競技に対する考えや，それに向かう並々ならぬ努力を察することができた。

（3）１１月２５日（木）　講話
　障害がある方と共に生きる社会を実現するためにできることを考え，障害があっても強い意志でそれを克服し，競技に取り組む姿勢に多くの生徒が共感することができた。決して諦めないことや，努力を積み重ねることの大切さを知る機会となった。

	【生徒の感想から】 ・　世の中には色々な人がいて，色々な考え方があることを知りました。それらを受け入れながら共に生活していこうと思いました。 ・　多くの地域では，障がい者や健康な人も一緒に楽しめるパラスポーツ，障がい者の方が困ったことや差別のないような取組がされていることが分かりました。 ・　マイナスに考えるのではなく，プラスに考える。そんな思考がこの時代には大切なんじゃないかと思いました。 ・　少し工夫して変えていけば，私たちは障がい者の方々と一緒に生活できることを知りました。「～すればできる」と言う考え方は大切だと分かりました。 ・　何事にもメリットとデメリットがあることがわかり，障害があっても人生は変わらないと思いました。
７　実践において工夫した点（事業の特色）	全校生徒に，実際にパラスポーツ競技の体験や障がい者スポーツに携わっている方の講話を聞かせたかった。しかし，生徒数が多く，さらに新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部の生徒のみの活動となってしまった。講話は，１学年全員で聞くことができたが，体験学習は，各学級の福祉委員と生徒会執行部が参加し，各学級や全校生徒に興味・関心が伝わるようにした。
８　主な課題等	啓蒙活動として，オリンピック・パラリンピックに関する掲示物があってもよかった。また，ボッチャ競技を体験した生徒から，もう一度やってみたいという声が多かった。今後は，できるだけ多くの生徒にボッチャ競技に触れさせる機会が得られるように実施方法を検討していく必要がある。 体験学習も講演も時間が短かったため，深い理解や興味・関心が高まったかどうか疑問である。設定時間の検討もしていきたい。
９　来年度以降の実施予定	今回のオリンピック・パラリンピック全国展開事業の実施のため宮城県障がい者スポーツ協会の協力の下，１年間取り組んできた。来年度以降も，今年度の反省を生かしながら，宮城県障がい者スポーツ協会と連携し，さらに保護者も参加できるように工夫しながら，共生社会に向けての取組を考える良い機会としたい。